花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌［RIKKA］
2022.AUTUMN
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE
No.42

特集

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

～小児医療と地域社会をつなぐ新たな拠点～

授業紹介 －教育の現場－
Enjoy! 学生ライフ
注目される研究報告
教員によるコラム“知見と生活のあいだ”
新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所
基金関係のお知らせ
Campus Information

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

Cover Photo

病気の子どもに付き添う家族の負担は計り知れない。多くの支援を受けて完成した「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」は、小児患者やその家族の張り詰めた気持ちや不安に寄り添い、「第二のわが家」として心身を休める時間と場を提供する滞在施設。心と体を整えた家族が、たくさんの笑顔と共に子どもに寄り添うことを期待したい。

2022.AUTUMN No.42

CONTENTS

03 特集 ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた ～小児医療と地域社会をつなぐ新たな拠点～

08 授業紹介 －教育の現場－

09 Enjoy! 学生ライフ

10 注目される研究報告

12 教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

13 新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

14 基金関係のお知らせ

16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウント

@niigata.univ

@Niigata_Univ_O

@niigata_university

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

題字
野中浩俊（のなか ひろとし）氏
新潟大学名誉教授（教育人間科学部）。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

特集

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

～小児医療と地域社会をつなぐ新たな拠点～

2022年10月1日、「ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた」が新潟大学医歯学総合病院のある旭町キャンパスにオープンした。病気の子どもとその家族が利用できる滞在施設で、国内12か所目、日本海側では初のハウスとなる。多方面から注目を集めるハウスへの期待について特集する。

小児患者と家族のための滞在施設

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン（DMHC）により運営されているドナルド・マクドナルド・ハウスは、自宅から遠く離れた病院に入院している子どもと、治療に付き添う家族のための滞在施設だ。「わが家のようにくつろげる第二の家」をコンセプトに掲げ、小児患者と家族が日常生活をスムーズに送れるように、自炊ができるキッチンやダイニング、リビング、ランドリールームやプレイルーム、プライバシーに配慮したベッドルームがある。滞在費は一人1日1000円。自宅と入院先との二重生活を強いられている小児患者の家族の精神的・経済的負担を和らげてくれる。

今秋、日本で12番目のドナルド・マクドナルド・ハウスとなる「にいがたハウス」が、新潟県の3次医療圏を支える県内唯一の特定機能病院であり、様々な高度医

2022年8月30日のオープニングセレモニー。（左から）冨田病院長、牛木新潟大学長、五十嵐DMHC理事長、花角新潟県知事、中原新潟市長、日色日本マクドナルド株式会社 代表取締役社長兼CEO

【ドナルド・マクドナルド・ハウスの歴史】

フィラデルフィアから始まったストーリー

1974年、米国フィラデルフィアでアメリカンフットボール選手として活躍していたフレッド・ヒルの3歳の愛娘が白血病にかかり、入院することになりました。 娘の入院中、彼がそこで目の当たりにしたものは、狭い病室で子どもの傍らに折り重なるようにして寝ている母親、やむなく病院の自動販売機で食事を済ませる家族の姿でした。そこで彼は、病院の近くに家族が少しでも安らげる滞在施設ができないものかと考え、病院の近くにあるマクドナルドの店舗オーナーや病院の医師、フットボールチームの協力を得て募金活動が進められました。

そして1974年10月、世界初の『ドナルド・マクドナルド・ハウス』が誕生しました。2022年9月現在、世界45の国と地域に380か所開設されています。（ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン公式ウェブサイトより抜粋）

病気と闘う患者家族同士の情報交換の場であり地域で医療を支える文化の拠点

療を行う新潟大学医歯学総合病院の敷地内にオープンした。

各所の理解と寄附が支えた「にいがたハウス」

新潟大学内で正式にハウス誘致が承認されたのが2019年。総額3～3億5000万円の建築費は、DMHCと折半とし、その半分を大学に設置する募金委員会で集める計画が立てられた。募金委員会代表であり、新潟大学医歯学総合病院の冨田善彦病院長に、「にいがたハウス」設立の経緯とその意義を聞いた。

「私の専門は泌尿器科学で、小児医療の現場にも関わってきました。昔は不治と言われた病も、医学の進歩とともに現代では治せるものも増えてきました。しかし、重い病気の治療には長期入院が必要です。お子さんが入院するとご家族が付き添うことになりますが、病院のアメニティ支援には限界があり、ご家族が大変なご苦労をされているのを現場で接する私たちは長く感じてきました。『ご家族の負担を少しでも軽減するためにできることはないだろうか』という問いは大きな課題だったのです」

そんな思いを抱え続けた冨田病院長は2019年8月、東京大学医学部附属病院にあるドナルド・マクドナルド・ハウス東大を視察した。

「これは絶対に新潟に必要だと思いました。ハウスが単なる患者家族の宿泊施設ではなく、それ以上の存在だったからです。ハウスは患者家族同士の情報交換の場であり、医療従事者だけでなく、コミュニティ全体で医療を支える文化の拠点でした。そこから『にいがたハウス』建設誘致に舵を切りました」

ハウスのロゴマークにもある“ハート”と日本を象徴する樹木の“桜”をモチーフにした感謝の樹。ハート型のプレートにはハウスの建設・運営に向けてご支援いただいた方々の名前が掲出されている

新潟大学医歯学総合病院
冨田善彦 病院長

新潟県、新潟市、地元企業、各種団体が発起人となって募金委員会が立ち上がり、各方面への募金活動が2019年10月からスタートした。翌年2月までの4か月で1億円近くの募金が集まるなど、順調な滑り出しだった。

「ところが2020年3月、新型コロナウイルス感染症の流行が本格化すると、募金がパタッと止まってしまいました。巻き返しを図るため、ダイレクトメールやラジオ番組への出演、講演、県外の同窓会への参加など、やれることはなんでもやろうと手を尽くしました。結果、様々な方面からご尽力をいただき、2020年10月に目標額に達することができました。」

ハウスは医療と地域を結ぶ拠点になる

治療効果の向上を支援する環境整備
単なる宿泊施設ではなく医療と地域社会を結ぶ

新潟大学医歯学総合病院は、小児の心血管外科手術数では全国トップ5に入ることでも知られている。県全域から隣県にまで及ぶ、距離にして300㎞圏以上の3次小児医療をカバーする特定機能病院だ。その存在意義からも自宅から遠く離れた病院での付き添い生活をサポートするハウスの存在は非常に大きい。冨田病院長が続ける。

「病院が提供する医療の質にさらに厚みが出ると思います。お子さんが入院生活を送るご家族にとって、時には医療者ではない方に聞いてほしい話もあるはずです。専門の医療人だけではフォローできない部分を、ハウスの同じ患者家族同士で、あるいはハウスのスタッフとの会話で補うことができれば、病院での治療効果の向上を支援する精神面での環境整備になると期待しています」

「にいがたハウス」は単なる宿泊施設ではなく、医療と地域社会を結ぶ拠点となり、地域社会全体で医療を支え合うことでコミュニティの強化につながる。

ほどよい距離感で家族を支える第二のわが家

「にいがたハウス」は明るく開放感のある4階建て。新潟県産木材を多用し、温もりを感じられる空間づくりが特徴だ。1階にはエントランスホールと図書室、2階にはキッチン、ダイニング、リビング、プレイルーム、ランドリールームがある。これらは全て共用スペースだ。利用者同士やボランティアスタッフとの間に自然な会話が生まれるようなあたたかい雰囲気がある。3・4階はバス・トイレ・ベランダ付きの個室。全10室のうち1室は車いす対応になっている。

施設管理はハウスマネージャー1名とサブマネージャー、アシスタントマネージャーで担当し、運営はボランティアによって支えられている。ボランティアが担う役割と存在の重要性について、DMHCの飯野直子常務理事に聞いた。

「当初、『にいがたハウス』運営に必要なボランティアの人数は150名を目標にしていました。しかし、実際はその2倍もの応募をいただき、オープン前で300名以上の登録をいただいています。ハウス誘致の募金に多くの方のご支援をいただいたことも含め、人の思いが人を動かすことを、ここ新潟で改めて感じることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。世界中のハウスに関わるスタッフは、医療従事者とは違うスタ

ハウスのエントランスホールにある「ハートフルカート」。入院中の子どもたちのための文房具や日用品、おもちゃ、絵本、また、付き添い家族が必要とするアメニティを無償で配布する

南側採光を全面に取り入れた、明るく開放的なダイニング。ダイニングの一角にはキッズコーナーも設けられ、ハウスを型取った棚もありワクワクする空間を演出

枕元の壁面に新潟県産杉を使用し、木のぬくもりが感じられる癒やしの空間になっている。各ベッドルームにはベランダも備わり、屋外の空気を吸ってリフレッシュも

建物上部のサイドライトから自然光・通風を取り入れた心地よい空間。壁には財団カラーのブルーやハウスロゴマークカラーのイエロー・レッドでカラーリングした小窓をリズミカルに配置し、遊び心あふれる空間に

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
飯野直子 常務理事

利用者にとってハウスとは

「自分だけじゃないんだ」と、感じられた場所

ふちゅうハウス利用者 佐藤奈津さん

息子の幹汰は生まれたときから入退院の連続で、これまで14回の手術を受けてきました。ハウスを利用させていただくまでは、普通のアパートのような宿泊施設を利用していました。本音を言うと、利用しはじめの頃は、共用スペースに少し抵抗があったんです。ダイニングなどで他のご家族と一緒になったとき、お互いに気を遣ってしまわないかなって。でも、同じ境遇のお母さんたちと何気なく会話することで、「自分だけじゃないんだ」と前向きな気持ちになっていきました。ボランティアの皆さんが、いつも「お帰りなさい」と迎えてくれるから･･･疲れて帰ってきた日も、人の優しさに触れて、元気をもらいましたね。夜、寝かしつけるまで面会して、一緒に笑顔でいられる時間が増えたので、幹汰も安心してくれているようでした。

家族の笑顔は病気の子どもに伝わる「にいがたハウス」のストーリーが新潟のボランティア文化を醸成する

ンスで患者さんとご家族を支えるという思いを共にしています。ボランティアは『ほどよい距離感を保って接する』ことを大切にし、『聞いてほしいことは聴いてさしあげる』『言わなくてよいことは言わない』という点を意識しています」

利用家族からは「距離感がとても心地よかった」「孤独感が癒された」「自分に戻る時間ができた」などの感謝の言葉をしばしば受け取るという。「いってらっしゃい」「おかえりなさい」というさりげないボランティアの声掛けも、患者家族の張りつめた気持ちをほぐしている。

「本当に些細なことですが、ボランティアのみなさんはそういう瞬間を大切にしています。ハウスで過ごす時間によって家族の方が笑顔になると、それが伝わり病気のお子さまも笑えるようになるんだそうです。世界中にはハウスの数だけ、利用者さんや関わるボランティアさんの数だけストーリーがあります。『にいがたハウス』のストーリーが新潟のボランティア文化を醸成し、地域への貢献につながると考えています。昨年は、日本におけるドナルド・マクドナルド・ハウスの運営開始から20年の節目でした。長く運営していると、ボランティアに参加される方々の中には、ご自身が子どものときに闘病したり、ご家族がハウスを利用されたという方がいらして、感慨深いものがあります。『にいがたハウス』は日本海側で初めてのハウス。これまで地理的にカバーされていなかった患者さんとご家族のお力にもなれたらと思います」

家族に寄り添う未来の医療人育成の一助になる

新潟大学医歯学総合病院の病棟に入院する小児患者で最も多いのは、がんや心臓の病気に対して長期の治療が必要な患者だという。入院期間が数か月から数年にわたることもあり、退院までの見通しが立ちにくいため患者本人はもちろん、家族も多くの困難を抱えている。実際の医療の現場にはどんな課題があるのか。新潟大学医学部小児科学教室の齋藤昭彦教授に聞いた。

「遠方から入院するお子さんのご家族は、お子さんに付きっきりで病室で一緒に生活されます。病棟にお風呂やシャワーはありますが、利用時間は限られていて落ち着いて利用することはできません。病院としてご家族分の食事は用意することができないので、お子さんの残した食事を食べられたり、コンビニのお弁当などで済まされている方が多いです。寝るときも、多くのご家族はお子さんのベッドや簡易ベッドでお休みになります。相部屋が多いので、隣のお子さんの泣き声や、トイレや検査の物音で夜中に目が覚め、十分な睡眠をとることができません。また、お子さんのこれからの診療や将来に対してご家族が感じる精神的・経済的不安は非常に大きいもの。この状況が数か月以上続くのです」

近年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から面会や付き添い人数も制限され、小児患者と家族の入院生活はさらに厳しい状況にあった。家族にとって、ゆっくり休め気分転換できる時間と場所の必要度は非常に高い。「にいがたハウス」にはどんな期待が寄せられているのか。

「ハウス内の色使い、広いキッチンとダイニング、ボランティアの方々が手作りしたパッチワークのベッドカバーなど、利用ご家族への配慮を感じる空間に感動しました。病院スタッフ側としては、付き添いが長いご家族、疲れが見えられたご家族に『今日はハウスでお休みになられたらどうですか』という提案ができるようになります。ご家族の不安な感情はお子さんにダイレクトに伝わります。病院の外でリラックスできたご家族が隣にいることで、お子さんの心は安らぎ、その後の診療がスムーズに進む可能性があります。慣れない入院生活の中で、心身をリセットできる環境があるのは重要なことです。また、ハウスの存在は、医療人育成の観点においてもメリットがあると期待しています。小児医療の現場は、医療従事者だけでなくボランティアの方々など、多くの方によって支えられています。そのような現場を目の当たりにし、ご家族のケアを含めてこれまで以上に包括的な医療を考えることができる未来の医療人が育成されることでしょう。『患者さんとそのご家族のために何ができるのか』を考えることは、医療人にとって一番大切なことです」

大きな窓がある多目的室／図書室。テーブルは天板に新潟県魚沼産のブナの一枚板を使用。
子ども用の絵本から大人向けの本まで並ぶ

「患者さんとそのご家族のために何ができるのか」を考えることは医療人にとって一番大切なこと

新潟大学医学部小児科学教室
齋藤昭彦 教授

地域医療の課題を解決する大学病院の使命

新潟大学医歯学総合病院は、新潟県唯一の特定機能病院として質の高い医療を提供する使命がある。新潟大学将来ビジョン2030でも、医療提供体制の充実による地域医療の課題解決を掲げている。医療の視点とは異なる「患者と家族の気持ちを穏やかにほぐす」というドナルド・マクドナルド・ハウスの存在は、小児医療と地域をつなぐ新しく太いパイプである。情報と知識、思いを共有し、職種を超えたつながりは新潟における小児医療の新たな基盤形成に大きな効果を発揮していくはずだ。大学病院でしか救えない命のために、新潟大学医歯学総合病院は、「にいがたハウス」とともに歩みを進める。

【第二のわが家に向けて】

ご家族の情報共有やコミュニケーションの場に

「にいがたハウス」ハウスマネージャー
稲川欣也さん

ハウスの運営はボランティアの方たちによって支えられています。ボランティアの活動内容は、日中は掃除やベッドメイクのチェックなどのハウスキーピングやチェックイン・アウトの対応、夜間は施設内の見回りなど、利用ご家族が安心して過ごせるように努めます。身のまわりの掃除や食事の支度は利用ご家族が行います。各部屋にはテレビはありません。少しでも共用スペースで情報共有やコミュニケーションのきっかけを作っていただければという思いからです。「病気の話より、日常の話を」という方が多いように思います。新潟県は南北に長く、同じ県内でも数時間もかけて病院に来られる方も多いですし、雪国ですので冬は通常の数倍の時間がかかる方もいます。そういった方々が少しでもご自分の家のように安心して利用いただけるハウスをつくっていきたいと思います。1人でも多くの方に知っていただきご支援いただけるよう、積極的に活動していきたいと考えています。

心を込めて、ご家族に寄り添える活動を

「にいがたハウス」ボランティア
鈴木朋子さん

私は仕事上、入院するお子さんのご家族と関わることが多くありました。今回、開所されると知り、微力ながらお手伝いさせていただきたく、応募しました。心を込めて丁寧にお掃除をしたり、落ち着いてチェックイン・アウト業務をするなど、ご家族にそっと寄り添えるような活動を心がけたいです。他のスタッフの方とも協力し、利用して良かったと思っていただけるように頑張ります。

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

―教育の現場―

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は
教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

農学部

西海理之 教授
Tadayuki Nishiumi

Profile　農学博士。専門はライフサイエンス、食品科学。超高圧を用いた食品加工に関する研究を行っている。

生物学実験

実験を組み立て分析する力を養い 4年生の卒業研究につなげる

「生物学実験」は農学部の応用生命科学プログラムと食品科学プログラムの3年生が1学期第2タームで受講する。化学実験などによる基本的操作・技術の習得を目指し、高等生物（動物・植物）や、より複雑な自然界の解析法を学ぶ。生物学実験の第12回～第18回（生物学実験Ⅱ）では、「筋肉に関する実験」を行う。担当の西海理之教授に話を聞いた。

「生体を構築している組織の機能を理解するために、筋肉タンパク質に関する実験を行います。オンラインの講義の後、実際に実験室で各班に分かれて筋肉からのタンパク質の単離、タンパク質・遊離リン酸定量、筋肉ATPase活性の測定を行い、骨格筋の筋肉タンパク質の構造と生物活性を調べ、筋収縮の仕組みについて理解を深めます」

西海教授が重視しているのが予習だ。学生には事前に実験手法テキストが配付され、プロトコル（事前レポート）の作成が課される。「生物学実験Ⅱ」の場合、準備に3～4時間はかかるという。さらに実験後、1カ月の期限内にレポート提出が求められる。

「基礎的な実験の手法を覚えることだけでなく、研究データをチェックしてレポートを書くことや、論文を読むことも課します。すべては4年次の卒業論文研究に向けてのトレーニングになります」

対面で行われる実験では学生同士の会話や生き生きとした表情が印象的だ。仲間と一緒に学ぶ時間の共有が学びのモチベーションにつながっている。

「科学で大事なのは自分で論理を組み立て、思考の流れを作ること。実験後のレポートは単なる結果報告ではなく、どのような過程から結果が導かれたかを分析し、理解することが重要です。科学は好奇心が大切。実験が学びの刺激になってほしいと思います」

STUDENTS VOICE

左：佐藤 樹さん
（農学部応用生命科学プログラム3年）
右：杉澤さやさん
（農学部応用生命科学プログラム3年）

「準備や実験、レポートと大変ですが2年次より専門性が増してやりがいがあります。自分の力で実験が進められるようになりたいです」（佐藤）
「実験は毎回、正確さが求められるので緊張します。昨年はオンライン授業が多かったのでグループで行う実験は楽しいです」（杉澤）

病気と闘う子どもと，
その家族が一緒にいられますように。

2022年 10月オープン

－小児医療宿泊施設－ ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

ハウスの運営は100%皆様からのご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細は　新潟大学　ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた　検索

お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。

↑2022年は、東日本選手権 舵手なしペア3位、北信越ブロック国体出場、全日本大学選手権 シングルスカル全体15位、舵手なしペア全体18位などの成績を収めた

ボート部

「一番早い艇が勝ち」という単純さと、艇を進める技術の奥深さが魅力

部員数は24名。入部後に初めてボートに触れる初心者も多い。「『一番早い艇が勝ち』という単純さと、艇を進める技術の奥深さがボート競技の魅力。日本では少々マイナーな印象がありますが、世界全体では競技人口が多くメジャーなスポーツです」。活動は基本的に1限の前に行う朝練習。五十嵐キャンパスから自転車で30～40分移動し、新潟市中央区上所にある信濃川沿いのボート艇庫に向かう。夕方より朝のほうが川面の波が穏やかで練習がしやすいという。悪天候や風で波が立ち、川で活動できない日は、ボート艇庫にあるトレーニング器具で体を鍛える。ボートはとても高価。レース艇は一人乗りでも中古車を買えるくらいの値段がする。「大会の際のボート運搬費が約30万円かかるなど費用面の負担は少なくありません。部が保有するボートには、OBの方などから寄付いただいたものもたくさんあります。ボートや道具はいつも大切に使っています」

➡練習は週6日。信濃川に拠点を置き活動する

活動を通して人間力と精神力が鍛えられます

主将
岩本達裕さん
（教育学部3年）

新潟大学公式アプリ配信開始

在学生、受験生、卒業生向けの
情報をコンパクトにまとめ、
随時お届けします！
ぜひダウンロードください。

App Store　Google Play

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究課題 コンピュータで読み解く生命医科学の世界

バイオインフォマティクス技術を活用して新しい視点からがん医療に取り組む

大学院医歯学総合研究科(医)
奥田修二郎 教授

| Profile | 博士(理学)。新潟大学医学部メディカルAIセンター・センター長。専門はバイオインフォマティクス。

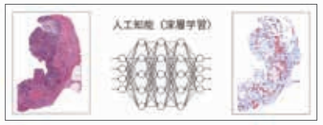
奥田修二郎教授の専門であるバイオインフォマティクスとは、生命科学（バイオ）と情報科学（インフォマティクス）の融合で、生物が持っている情報をコンピュータで解析する分野だ。「ヒトの遺伝子数は2万個以上と言われています。それを解析するときに目視で数え、人の手で1つ1つ処理するのは現実的ではありません。コンピュータを使い、大量のデータからその意味や特徴を解析するために、バイオインフォマティクスの技術を応用しています」

ヒトDNAの全塩基配列を解読するプロジェクト「ヒトゲノム計画」で用いられた次世代シーケンサー（遺伝子の塩基配列を高速で解読する装置）が登場した2000年代中盤以降、生物・医学研究が加速度的に進展し、膨大なデータを処理するバイオインフォマティクスの存在感が増してきた。新潟大学医歯学総合病院でも、がんの原因となる遺伝子変異でがんを分類し、体質や病状に合わせた個別化治療を行うゲノム医療が行われている。バイオインフォマティクスによるデータ解析のニーズは高い。

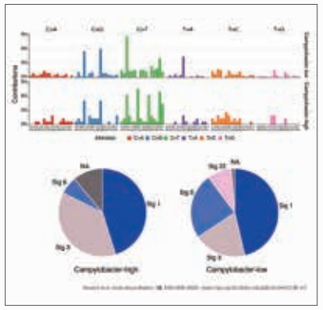
「患者さんと直接接することはありませんが、治療のためのデータを処理するという点でバイオインフォマティクスは医療を支える重要な役割を担うと思います」

現在、奥田教授が進めている研究は、腸内細菌叢解析、がんゲノム解析、病理組織の画像解析、データベース開発の4つが大きな柱となっている。

「病理組織の画像解析により、がん組織の遺伝子変異や病態を推測するための研究を行っていますが、これに人工知能を用いてアプローチしていきたいと考えています。また、最近、がん発症の原因に、がん組織に共生するバクテリアが関連している可能性があることが分かってきました。これまであまり注目されてこなかった分野で、新しい視点でのがん対策につながればと期待しています。バイオインフォマティクスは他の研究分野の発展を下支えする縁の下の力持ちの存在になることが多いですが、データ解析を通じてがんの治療の改善や予防に貢献できたらと思っています。自身の研究推進と同時に人材育成にも力を入れ、医学部や医療全体を盛り上げていきたいです」



↑人工知能で病理画像から遺伝子変異の状態を予測できる



↑Mutational signature解析から腫瘍内細菌叢が原因の癌が示唆される

新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ，キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム
CAN システムとは Web 上のシステムを介して，
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！ 新潟大学 CAN システム 検索 URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp /

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

研究課題 日本のスナップ写真史

日本写真史における「スナップ」の系譜をたどりスナップ美学の実態と変遷に迫る

人文学部
甲斐 義明 准教授

| Profile | 博士(美術史学)。専門は写真史、近現代美術史。日本とアメリカの写真の歴史について研究。著書に『ありのままのイメージ:スナップ美学と日本写真史』など。

記念写真や広告写真、科学写真など、写真には様々な社会的用途があり、それぞれにルーツや意義が存在する。甲斐義明准教授は、美術的観点から捉えた写真の歴史や文化の変容について、作品や資料をもとに紐解く。

「写真を芸術として確立しようとする動きは19世紀半ばのヨーロッパで始まり、その後アメリカや日本へ浸透していきました。どのような作品がアートとみなされてきたのか、写真家たちがどういった活動をしてきたのかを歴史的背景と照らし合わせながら分析しています。その中で『スナップ』と呼ばれる撮影技法に焦点を当て、日本における芸術写真の位置付けや考え方がどのような展開を遂げているのかを研究しています」

スナップ写真とは一般的に「カジュアルな写真」「簡単に撮った写真」といった意味で使われるが、写真界では「カメラに気付いていない被写体を自然に、率直に撮る写真」という意味を持つ。日本ではこの技法が諸外国と異なる独自の文化を形成しただけでなく、ひとつの美学として写真表現の歴史の中心的な位置を占めてきたと、甲斐准教授は説明する。

「昭和初期から中期にかけて活躍した木村伊兵衛や土門拳といった写真家たちの影響もあり、『スナップこそが最も重要な写真であり、写真美学の王道』という考えが日本の主流でした。当時の作品を精査してみても、演出されていない場面を切り取ろうとしたものが多く、新たなジャンルを開拓したことが読み取れます。ありのままの表情や自然さに最高の価値を見出すという彼らの価値観や感性が受け入れられた結果、『スナップ美学』として確立していったのだと考えられます」

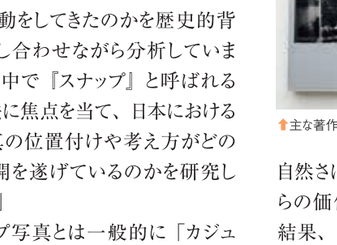
↑担当する「表現プロジェクト演習」の授業で履修学生が制作したフォトモンタージュ

↑主な著作物

日本写真史をけん引してきたスナップ美学。しかし近年はそのあり方が変遷しつつある。芸術写真は今後どうなっていくのか。

「スマホをはじめ、急速なデジタル化により写真と動画の境界線があいまいになり、加工技術の発展も相まってスナップそのものの定義が揺らぎつつあります。それでも、スナップにはその瞬間をありのままの姿でとらえておきたいという欲求を満たす役割が根底にあり、写真家たちのスナップ美学に対する考えや理念は、形を変えつつ今なお受け継がれています。メディアの多様化が著しい現代において写真がどのような社会的・芸術的意義を持つのか、これからも探究していきたいです」

特別なあなたに 特別な1枚
「新潟大学カード」 入会受付中！



新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
(受付時間 平日10：00～15：00)
E-mail：n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム

“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第24回は工学部です。

第24回●工学部 「太陽電池で作る新しい未来」

カーボンニュートラル達成に向けて、再生可能エネルギーの活用は注目を集めています。ヨーロッパでは、2035年までに風力発電と太陽光発電の設備容量の大幅増加が見込まれており、日本だけでなく世界全体がエネルギーの転換期を迎え大きく動き出しているといえます。なかでも、太陽光発電は天候の影響は受けるものの設備導入費が安価なため、再生可能エネルギーの大きな柱になると期待されています。ですが、日本ではメガソーラーを新設する土地を確保できるのは一部のみで適地は年々減少しています。さらに、自然災害における安全面や景観などが懸念されており制約があるのが現実です。ヨーロッパでは、デザイン性のあるカラフル太陽電池を使ったアート作品や窓ガラス、モニュメントがあちらこちらに設置されており、景観にも配慮されています（左図）。

日本でも太陽光発電による発電量を増やすためには、地上設置型太陽光発電システムだけでなく、公共の駐車場、営農型、水上型、建物の壁面や車載用など従来の太陽電池とは異なる使用方法でのブレイクスルーが必須といえます。しかし、これらの太陽電池は、従来の太陽電池とは異なる使用方法のため、どれだけ耐久性があるのか、安全に使えるのかといったことはまだ十分にわかっているとは言えません。例えば、同じ太陽電池セルを家の屋根に設置した場合と車のルーフで使用した場合を比較してみます。家の屋根に設置する場合、太陽電池の形状は平面パネルを使用し、取り付ける方角や位置を選ぶことができます。一方、車のルーフに取り付ける場合、ルーフの形状に合わせなければならない、かつ軽量でなければなりません。さらに、車は移動体のため、建物や雲などの影の影響を大きく受けます。このように同じ太陽電池セルを使っていたとしても、使用用途に合わせた材料と構造が求められるため、耐久性もそれぞれ異なる可能性があります。今後、太陽電池のさらなる実用化に向けて、安全に使用するための十分な耐久性試験は、ますます重要になってくるでしょう。安心して使えるカラフルなデザイン性のある太陽電池を自分の住んでいる街の駐車場、電灯、道路、モニュメント、壁面など、あらゆるところに発電機能として盛り込んでいけば、街全体を巨大な発電所とすることができます。太陽電池を単なる発電技術として使うのではなく、他の技術と融合して街の一部に溶け込ませていくことでカーボンニュートラル達成につなげていきたいです。

さまざまな太陽電池

オランダの企業フィジーがアイントフォーヘン内の銀行に取り付けた窓太陽電池。(a)外観と(b)内観。

オランダの学生が作製したソーラーキャンピングカー“ステラヴィータ”。最大速度120km/h、1日で約700km走行でき、車の中には冷蔵庫、ベッド、シーリング灯、シャワー、トイレも完備。

城内紗千子
工学部准教授

専門は、有機薄膜デバイスの作製と評価。主に、高効率で小型、フレキシブルなデバイスの作製と発電メカニズムについて研究。また、太陽電池の信頼性評価も取り組む。

新潟大学 リサイクル募金

読み終えた本や不用品が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

お申込み 新潟大学リサイクル募金 0120-29-7000（受付）9～18時

（運営）嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第 431100028608 号

企画 新潟大学サポーター連携推進室 TEL. 025-262-5651, 6010

真の強さを学ぶ。新潟大學 NIIGATA UNIVERSITY

新潟市中央区西大畑。現在の新潟大学附属新潟小学校のグラウンド付近に、かつて存在した木造の理学部旧校舎。旧教養部としても使用された。元々は旧制新潟高等学校の校舎として大正時代に建てられたもの。昭和45（1970）年、理学部が五十嵐キャンパス（新潟市西区）の新校舎に移転した後、惜しまれながらも取り壊された。旧校舎の玄関があった場所には、旧制新潟高等学校の同窓会である六花会によって、同校跡の石碑が建てられている。旧制新潟高等学校で使われていた実験器具は、新潟大学旭町学術資料展示館で展示されている。

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

「街並みもすっかり変わって、私が学生だった頃の光景はあまり残っていません。本当に穏やかな時代で懐かしいです」

かつての写真を見ながら金子恒雄名誉教授が語る。当時、新潟大学理学部は新潟市の西大畑地区に校舎を構えていた。土間の廊下が残るなど、年季を感じる理学部棟は前身の旧制新潟高等学校の校舎を引き継いだもの。お世辞にもきれいとは言えない建物だったが、周辺環境が良かったため楽しいキャンパスライフを過ごせたという。

「講義が終わるや否や学友と野球をしたり、浜へ行って遊んだりしました。繁華街も近く、『グランド劇場』という映画館で流行りの洋画を観たものです。私は実家からの通いだったので、飲み屋などにはあまり行けませんでしたが、下宿組は夜も楽しんでいたようで、少しうらやましかったですね」

学部卒業後は、新潟大学に新たに設置された大学院理学研究科（修士課程）に一期生として入学。修了から2年後の昭和44年、通い慣れた西大畑に助手として戻ってきた。その翌年、理学部は五十嵐キャンパスへ移転。大学の発展とともに、金子名誉教授は教育と研究の両輪で自身のキャリアを積み重ねていった。

「指導教員の野本森萬先生の助言もあって大学院に進学しましたが、実は高校教諭の内定をもらっていました。学部卒業のタイミングで修士課程の新設がなければ研究者として歩むことはありませんでした。迷いや葛藤を経て選んだ道が結果的に飯の種となり、気付けば45年の歳月を新潟大学で過ごしていたことになります。今となっては運命だったのかなと思います。新潟地震や大学紛争もこの場所で経験しました。私の研究者人生のスタートの地が西大畑の理学部棟です。今もこの辺りを通ると、当時の記憶や思い出がよみがえります」

金子恒雄（かねこ つねお）
新潟大学名誉教授

理学博士。昭和40年、新潟大学理学部物理学科を卒業。同年、新設された大学院理学研究科へ進学。新潟大学理学部助手、助教授を経て平成7年から大学院自然科学研究科教授。平成20年定年退職。専門は原子核理論。現在は在職当時の同僚たちと囲碁を楽しむ。

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。
令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」の支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿（R4.6～R4.8寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉江口 正樹　遠藤 国勝　大西 政司　大貫 俊二　金子 峰　田代 文俊　外山 久泰　鳴海 多賀子　笛木 隆弘
逸見 和宏　棟方 隆一　吉塚 康一

匿名希望17名

〈 団体 〉匿名希望1団体

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。
令和4年1月に創設し、「新潟大学フェローシップ支援」「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿（R4.6～R4.8寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉金子 峰　匿名希望6名　　〈 団体 〉匿名希望1団体

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿（R4.6～R4.8寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉相原 聡　新井 裕哉　飯澤 克　石本 智恵子　猪俣 博　今井 ありん　今井 かおり　今村 孝　岩﨑 正始
大久保 優美　大里 瑞栄　岡崎 敏明　尾田 雅文　音田 則男　笠原 隆　笠原 幸夫　加藤 僖一　加藤 景三
金子 峰　上村 顕也　北見 麻衣　窪田 哲丸　倉品 俊裕　紅露 一寛　五箇野 幹子　小林 俊裕
小本 旬　近藤 史朗　坂本 秀一　佐藤 新一　佐藤 高大　佐藤 紀子　佐藤 弘恵　佐藤 正道　鴫原 明
芝井 太郎　菅又 正剛　鈴木 芳造　砂山 茂　関 和也　相場 英勝　高島 朗　高橋 絵里　滝澤 哲也
武田 澄江　建入 芳昭　土田 健一　坪内 薫　寺田 剛　外山 久泰　内藤 哲也　長尾 賢治　永田 孝夫
中野 ひとみ　中村 喜彦　長山 昌利　西澤 元良　野口 晴昭　橋本 茂久　馬場 和幸　濱田 一成　樋浦 尚登
日野 長臣・日野 てつゑ　平野 隆久　廣田 昭美　福本 和佐男　保坂 清　星 淳子　保里 正則　増田 淳
松原 幸治　松山 勇仁　宮川 貴浩　宮下 正弘　山下 藤美雄　山田 寛喜　吉井 雅栄　米川 宏一　渡辺 健寛

匿名希望73名

〈 団体 〉越後製菓株式会社　株式会社川崎商会　コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社ベンディング新潟支店　サトウ食品株式会社
三条市農業担い手協議会　サントリービバレッジソリューション株式会社　CEC新潟情報サービス株式会社
住友林業株式会社住宅・建築事業本部新潟支店　株式会社ツガミ　新潟大学医学部学士会　日本精機株式会社
日本海エル・エヌ・ジー株式会社　株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟　橋本耳鼻科クリニック　医療法人社団春陽会みなみ歯科医院
株式会社ヒウラ　北越コーポレーション株式会社　北陸ガス株式会社　明和工業株式会社　株式会社和光ベンディング

匿名希望8団体

《クラウドファンディング》
プロジェクト名：摂食嚥下障害の在宅診療を支える、情報連携の仕組みづくりを新潟から！／プロジェクト実行責任者：井上　誠

〈 個人 〉会田 生也　赤坂 紀幸　浅見 浩之　阿志賀 大和　安島 久雄　足立 融　安達 大雅　新井 是英　有馬 敬
粟屋 剛　安藤 栄吾　飯泉 智子　飯田 貴俊　五十嵐 敦子　井口 清太郎　池田 聡子　石井 一裕　石井 希
石井 雄介　石亀 裕通　泉野 裕美　泉 綾子　和泉 徹　依田 浩子　板井 進悟　伊藤 和智　稲川 拓磨
稲田 絵美　稲葉 隆　井上 昂也　井上 達朗　岩森 大　上原 達明　上羽 瑠美　鵜谷 裕子　宇野 秀
浦島 信二　江口 悠美子　江尻 貞一　遠藤 亜由美　大口 繭美　大久保 明　大久保 昇　太田 浩太郎　大塚 和朗
大西 淑美　岡田 匠　岡安 一郎　尾﨑 豊実　小澤 賢一　小田島 あゆ子　落合 勇人　小野 堅太郎　小幡 裕明
折居 千恵子　折笠 紀晶　加賀美 一恵　加賀美 慶　梶山 理恵　加藤 優希　金子 真美　金子 裕美子　亀倉 陽一
神田 知佳　神成 庸二　岸本 奈月　吉津 和憲　清田 学　國枝 顕二郎　熊谷 亜子　鞍立 常行　栗田 浩
河野 雅之　高 福子　古志 奈緒美　小徳 崇人　齋藤 孝二　斉藤 晴美　堺 琴美　酒井 翔悟　坂詰 智仁
坂ノ下 典正　坂 暢晃　櫻井 正憲　笹 杏奈　佐藤 厚　佐藤 敦司　佐藤 修　佐藤 慎一　佐藤 拓一
佐藤 弥生　佐藤 裕二　佐藤 義英　佐野 明彦　椎野 良隆　志賀 博　重谷 寧子　重村 憲徳　下畑 享良
上路 敬一　白石 成　白野 美和　新開 瑞希　新川 いくみ　菅野 亜紀　杉本 皓　杉山 庸一郎　鈴木 滋
鈴木 拓　鈴木 基　鈴木 裕希　鈴木 善貴　鈴見 梨紗　砂田 圭介　清野 由美子　関上 幸子　袖山 敬央
高井 晃　高木 律男　高野 聡造　高橋 圭三　高橋 直紀　高橋 良明　高橋 佳男　竹石 龍右　竹石 英之
竹井 亮・絵理　竹之内 辰也　田澤 貴弘　楯 泰昌　田中 淳　田中 美央　田中 佑人　谷口 裕重　谷口 祐介
田村 知丈　塚田 しげみ　塚田 徹　辻村 恭憲　寺尾 浩子　土井 教子　登坂 邦彦　富所 俊恵　内藤 義隆
永井 徹　永井 博子　永井 正志　中尾 真理　中川 喜晴　中澤 桂一郎　中島 郁夫　中島 光太郎　中林 弘
中村 史朗　中村 由紀　那小屋 公太　西嶋 和隆　西根 惠子　西村 美貴　西本 純　西山 真悟　二瓶 亜津子
野村 隆　羽尾 直仁　羽賀 忠大　箱守 玲香　橋浦 由記子　長谷川 博　花田 晃治　早崎 治明　林 豊彦
林 宏和　速水 いづみ　原田 和昭　張替 徹　坂東 達矢　引間 愛優美　久松 徳子　人見 琢也　兵頭 政光
廣澤 利幸　福岡 達之　藤田 一　藤橋 夏子　古谷 茂　堀野 一人　本田 友子　本多 正明　本間 正美
前田 留美子　牧野 繁　益田 慎　町田 直樹　松香 芳三　松崎 正樹　松島 一雄　松永 和秀　丸山 亮
萬田 陽介　水野 吉広　道見 登　美藤 純弘　皆木 省吾　三村 健　宮岡 里美　宮本 佳織　牟田 晃洋
村田 雄子　森下 元賀　森 隆志　紋谷 光徳　安田 昌代　八幡 晶子　山下 智　山下 庸　山田 一尋
山村 千絵　山本 真也　山本 悠　横野 知江　横山 友徳　吉田 教明　吉原 翠　米川 宏一　和座 雅浩
渡邊 賢礼　渡部 守

匿名希望198名

新潟大学基金

〈 団体 〉朝日大学歯学部口腔病態医療学講座障害者歯科学分野　NPO法人口から食べる幸せを守る会　医療法人ENGAGE あい訪問歯科クリニック 一瀬浩隆
小貫歯科医院　鹿児島大学歯学部同窓会　鹿児島大学小児歯科 山﨑要一 他医局員一同　かつき歯科クリニック院長 勝木雄大
川崎歯科医院 川寄隆憲　河村歯科医院 河村康二　株式会社京料理花萬 代表取締役 吉田恵子　くにたけ歯科クリニック
クロスウィルメディカル株式会社　澤田歯科医院 澤田宏二　一般社団法人山陰言語聴覚士協会　株式会社ジェイ・エム・エス　SHIKIEN株式会社
医療法人社団長谷川歯科　医療法人真仁会五泉中央病院　株式会社シンワ歯研　医療法人誠心会吉田病院 理事長 吉田英毅
竹内歯科医院 竹内吉三郎　株式会社タケショー　ティーアンドケー株式会社　株式会社ディモルギア 代表取締役社長 長沼茂夫
医療法人社団 デンタルクリニック ツチヤ　利根歯科診療所　医療法人NINE NETWORK 竹山歯科口腔医院 竹山旭
一般社団法人新潟市歯科医師会　新潟大学歯学部同窓会　新潟大学小児歯科学分野　新潟南病院 渡部透　株式会社西村書店
日本ゼトック株式会社　医療法人社団 野坂歯科医院　フジッコ株式会社　ヘンリーシャインジャパンイースト株式会社新潟支店
ホリカフーズ株式会社　前川歯科クリニック　みえ呼吸嚥下リハビリクリニック 井上登太　宮本歯科医院 宮本重樹
明倫短期大学学生総合支援センター　医療法人優寿会本山歯科医院 竹内俊充　ユニテックフーズ株式会社特販部　横山歯科医院
吉川歯科クリニック 吉川浩郎　米沢市歯科医師会

匿名希望4団体

■トピックス
〈ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがたへのご寄附者様と学長との懇談会を開催しました〉
8月30日（火）に、開所式を終えたばかりのドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた（にいがたハウス）の図書室をお借りして、新潟大学基金を通じ、にいがたハウス建設・運営へご寄附いただいた皆様と本学学長との懇談会を開催いたしました。
当日は、医歯学総合病院の冨田病院長も出席し、牛木学長と共にご寄附者様へ謝意を述べさせていただきました。
ご寄附者様からは、ご寄附のきっかけ、にいがたハウスの運営や本学への支援に関する想いなどをお話しいただき、和やかに歓談させていただきました。
懇談終了後は、にいがたハウスのハウスマネージャー稲川欣也様のご協力により、にいがたハウス内をご案内いただき、ご参加いただいた皆様には、新潟県にはじめて建設された、「お家から遠く離れた病院に入院しているお子さんとご家族のための第二のわが家」を一足早くご体感いただきました。
新潟大学では、にいがたハウス建設後の運営費用に関する募金を継続して募っております。引き続き温かいご支援を何卒、よろしくお願いいたします。

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿（R4.6～R4.8入会・更新分）※（50音順 敬称略）

【更新】〈 個人 〉桑原 優子　森 正勝
〈 団体 〉開進工業株式会社　一般社団法人新潟県経営者協会　木山産業株式会社　藤村クレスト株式会社
グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社　株式会社ジェイ・エス・エス　東日本電信電話株式会社埼玉事業部新潟支店
株式会社ジョイフルタウン　損害保険ジャパン株式会社新潟支店　ミサワホーム北越株式会社　株式会社シアンス

最新の会員名簿は、右のURLからご覧いただけます。　https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/

新潟大学リサイクル募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者（R4.6～R4.8寄附入金分）

〈 個人 〉12名　　〈 団体 〉6団体

遺贈によるご寄附

■遺贈とは
遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。
この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。
遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、下記お問合せ先へお問い合わせください。

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

【ほぼ毎日更新中】
Twitter始めました！
ぜひフォローお願いします

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先　新潟大学サポーター連携推進室　TEL 025-262-5651・6010・6356　E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
HP https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

フォッサマグナミュージアム連携看板上掲式を開催しました

本学では、五十嵐キャンパス理学部棟にて、2022年8月19日にフォッサマグナミュージアム連携看板上掲式を開催しました。本学理学部と糸魚川市教育委員会は、「新潟大学理学部と糸魚川市教育委員会との連携に関する覚書」を 2020年7月7日に締結。さらに、この連携をより具体的なものにするため、同年11月28日には、新潟大学理学部サイエンスミュージアムと糸魚川市のフォッサマグナミュージアムを相互にサテライトミュージアムと位置付ける申合せ書を締結しました。本上掲式は、申合せ書締結の記念として、米田徹糸魚川市長、鷸本修一糸魚川市教育委員会教育長、竹之内耕フォッサマグナミュージアム館長及びフォッサマグナミュージアム学芸員をお招きして開催したもので、新型コロナウイルスの影響により当初日程での実施を延期し、このたびの開催となりました。当日は、サイエンスミュージアム前でのセレモニーの後、大鳥範和理学部長、松岡篤理学部サイエンスミュージアム館長らを交えて、両ミュージアムの将来について語り合う意見交換会を実施しました。

令和4年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択されました

令和4(2022)年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」は、「インド太平洋地域等との大学間交流形成支援」として公募が行われ、本学が申請した取組「インド太平洋地域の『仮想フィールド』を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」が採択されました。本事業で交流するインド、オーストラリア、スリランカの3ヶ国と日本は、自然環境に関わる様々な課題を抱えています。これらの課題は、SDGsのゴール⑬あるいは⑪のように、世界各国共通の未達成課題でもあります。本事業では、各国ならではの課題や自然教材および教育方法を、「仮想フィールド」としてオンライン上に集結し、グローバルな観点で活動できる地球のプランナーを育成するための教育プラットフォームを構築します。4ヶ国・10大学の学生は、まず、オンラインでのグループワークを伴う仮想フィールド実習、その後、渡航型のフィールド実習に参加します。チームで課題に取り組む短期プログラム、個人として課題解決能力を養う中・長期プログラムによって、オンライン協働学習の成果を現場で確かめます。参加学生は、資源・エネルギーやインフラ整備などに携わる「フィールド系の技術者」や、環境に関する新しい産業の創出者となることが期待されます。また、SDGsの未達成課題に対して、解決方策を提示できるリーダー的な人材にもなりうることを想定しています。

カーボンニュートラル融合技術研究センター発足記念講演会を開催しました

本学研究推進機構は、2022年9月14日、「カーボンニュートラル融合技術研究センター(IRCNT)」の発足を記念し、企業や他大学等からの約60名を含む、約180名の参加者を迎え、講演会を開催しました。IRCNTは、カーボンニュートラルを実現するために太陽熱利用分野、太陽光発電分野、水電解分野の世界最高水準の研究開発を推進し、早期の社会実装に取り組むことを目的に掲げ、太陽熱利用、太陽光発電、水電解の研究分野のトップランナーである新潟大学の研究者が中心となり発足した研究推進機構附置コア・ステーションです。当日は、文部科学省大臣官房の林孝浩審議官(研究開発局担当)、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の久木田正次理事、新潟県の花角英世知事よりご祝辞をいただき、記念講演では、東京大学教養教育高度化機構の松本真由美客員准教授から、国内外の環境・エネルギー政策の最新動向について、また、NEDO技術研究戦略センターサステナブルエネルギーユニットの仁木栄ユニット長からエネルギー技術の展望について紹介がありました。また、同センター長の児玉竜也教授、副センター長の増田淳教授及び八木政行教授から技術紹介の説明があり、講演会終了後には、関連研究設備の見学会が実施されました。

新潟大学 季刊広報誌 六花
RIKKA 2022.AUTUMN No.42
発 行／2022(令和4)年11月
編 集／新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電 話／025-262-7000
Home Page https://www.niigata-u.ac.jp/
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp
新潟大学 Facebook
https://www.facebook.com/niigata.univ

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。